

岐阜県の水産業

岐阜県の水産業の概要

岐阜県は、木曾・長良・揖斐の木曾三川を始めとして多くの清澄な河川に恵まれており、アユやアマゴを中心とする内水面漁業*（河川漁業、養殖業）において全国有数の県です。

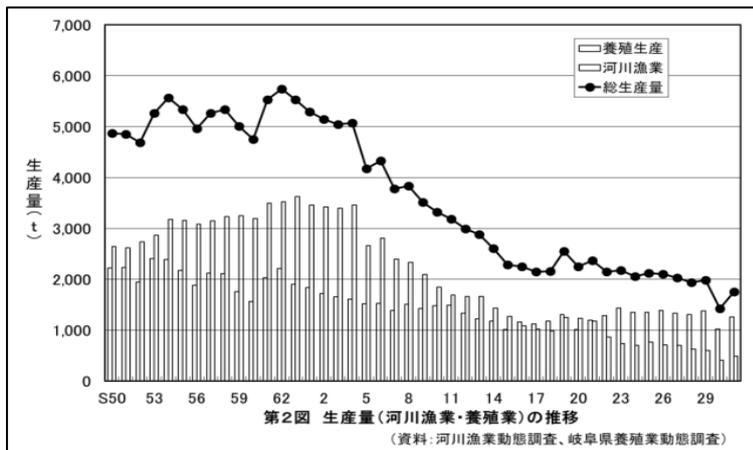
本県は古くから「飛山濃水の地」と呼ばれ、東部県境には海拔 3,000m を超す山々が連なる「日本アルプス」と呼ばれる飛騨山脈があり、西部県境には 2,000m 前後の両白山地や伊吹山地等があります。これら山地の間に飛騨・美濃高原があり、北部から南部へと高度と起伏を減じながら海拔 0m の水郷地帯に及んでおり、豊かな自然に恵まれています。

本県の水産業は、内水面の河川漁業と養殖業で構成されており、高所に源を発する河川は、上流から下流へと流れる中で、多くの魚種を育てており、古来よりアユを中心とした様々な河川漁業が営まれています。一方、養殖業は、北部では冷涼な気候と河川水や谷水を利用したニジマスやアマゴ等の冷水性のマス類の養殖が盛んであり、南部では地下水を利用したアユ等の温水性魚類の養殖が盛んです。

（*内水面漁業：湖沼、河川、池など、いわゆる内水面で行われる漁業。海面漁業に対する語。）

岐阜県の水産業総生産量

令和元年における本県の水産業総生産量は 1,754 t でした。その内訳は、河川漁業が 492 t（28.7%）、養殖業が 1,262 t（71.3%）となっています。



河川漁業では水域環境の悪化やアユの冷水病、エドワジエラ・イクトルリ感染症、カワウの食害などに起因する漁獲量の減少やレクリエーションの多様化による遊漁者数の減少、養殖業では魚価の長期低迷、原油価格や飼料価格の高騰、後継者不足など、内水面漁業を取り巻く環境は厳しい状況にあります。

平成 27 年 12 月、長年の漁業関係者を中心とした長良川上・中流域の営みが、国際連合食糧農業機関（FAO）により「清流長良川の鮎」として世界農業遺産に認定されました。これは人々の生活や文化、水環境、漁業資源などが連環する「里川のシステム」として、今なお受け継がれていることが評価されたものです。

今後も、このシステムを守り後世に継承する為、内水面漁業の担い手育成、健全な放流用アユ種苗の安定供給、魚病対策、カワウの駆除、漁協が実施する漁業体験や釣り教室等への支援を継続していくことが必要です。

岐阜県の豊かな水産資源を後世に伝えるために私たちができることを考えてみよう。

参考資料：「岐阜県の水産業」（令和 2 年 9 月岐阜県農政部里川振興課水産振興室）

<https://www.pref.gifu.lg.jp/uploaded/attachment/211008.pdf>